

クリティカルケア領域において延命治療に関する代理意思決定を行う家族への看護援助に関する文献検討

田中羽衣香、金子佳世、阿部文絵
新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】クリティカルケア領域における終末期は突然、発症した危篤な疾病や不慮の事故などに対して適切な医療の継続にかかわらず死が間近に迫っている状態である。¹⁾そのため、自らの意思を表明できない患者の代理人として、家族が治療方針や生命維持装置装着などの延命治療について意思決定を迫られることがある。

本研究では、クリティカルケア領域において延命治療に関する代理意思決定を行う家族にどのような看護援助が必要とされるのか、文献検討を通して明らかにすることを目的とする。

【方法】医中誌 Web を用い、2016年5月12日現在、最新5年分、原著論文に限定し、「延命処置」「家族」「意思決定」「家族看護」をキーワードとして検索した。在宅、小児を除く9文献を研究対象とした。対象文献を読み込み、クリティカルケア領域において延命治療に関する代理意思決定を行う家族に必要な看護援助についての記述を抽出し、類似の内容をカテゴリー化して分析した。

【結果】分析の結果、延命治療に関する代理意思決定を行う家族に対する看護援助として、表1の通り、6つのカテゴリー【 】31のサブカテゴリー<>が抽出された。

表1. 分析結果

<p>【看護師は家族の心理状態、患者の病状の理解状況から意思決定能力を判断する】 <看護師側から家族の意思を確認するために働きかける><家族の理解状況や不安などの心情を理解する><家族による意思決定能力を判断する></p>
<p>【看護師は家族との関係を丁寧に着目、雰囲気作や環境づくり、対話により家族の気持ちを整理することで苦しみ軽減をはかる】 <苦しみを伴う意思決定に対する家族の思いを引き出し、苦しみ軽減を図る><家族が思いを表出しやすい環境を整える><医療者-患者・家族間のコミュニケーション機会をつくる>他</p>
<p>【家族が患者に触れることで現状の理解を促し、患者と家族の意向を踏まえて意思決定できるよう支援する】 <家族の本心を引き出し意思決定を支援><患者の意向に基づき方針を決定する><患者との時間の共有><意思決定の背景を重視>他</p>
<p>【看護師はわかりやすい言葉で家族と医師との橋渡しを行い、家族を含めた医療チームで患者に対する目標や課題を確認する】 <医師との仲介役・家族の代弁者となる><医療者全員で家族のニーズを満たすことにつながる患者の目標や課題を確認></p>
<p>【家族がいかなる選択をしても支援できるよう医療者の支援体制を整える】 <時間や支援体制を調整する><いかなる選択においても、終末期ケアの十分な支援体制を整える>他</p>

【家族のありのままの気持ちを受け止め、選択した意思決定を肯定する】

<家族の揺らぎを理解し、家族が選択した意思決定を肯定できるよう関わる><意思決定後の体験を促進><家族が死を受け入れる時間を作る>他

【考察】 1. 代理意思決定までの看護援助

家族の苦痛の軽減、納得できる意思決定の選択につなげるため、意思決定前の関わりをなかで、【家族の心理状態、患者の病状の理解状況から意思決定能力を判断すること】

【家族の苦しみの軽減をはかるために関係を丁寧に育み、雰囲気作や環境づくり、対話により家族の気持ちを整理する】【家族が患者に触れることで現状の理解を促し、患者と家族の意向を踏まえて選択した意思決定を尊重する】ことが重要であると考えられた。

2. 代理意思決定時の看護援助

患者の生命危機だけでなく家族がいかなる意思決定を選択しても支援できるよう、看護師はわかりやすい言葉で家族と医師との橋渡しを行い、【家族を含めた医療チームで患者に対する目標や課題を確認する】ことが必要であり、<医師との仲介役・家族の代弁者となる><医療者全員で家族のニーズを満たすことにつながる患者の目標や課題を確認>することが必要だと示唆された。

3. 代理意思決定後の看護援助

【家族のありのままの気持ちを受け止め、選択した意思決定を肯定する】ために、<家族が死を受け入れる時間を作る><意思決定後の体験を促進><ありのままを受け止める>ことを看護援助として実施することが必要であることが示唆された。医療者が死に逝く患者の人生に関心を寄せ、肯定的な評価を伝えていくことで、家族による患者の人生の振り返りを促し、死別後に家族の手助けになるのではないだろうか。

【結論】 1. 家族が「患者にとって最善の選択であった」という思いを持つことができるように意思決定までの家族のアセスメント、関わりを通して苦痛を理解し、軽減することで患者と家族の意向を踏まえた意思決定につなげることが重要である。

2. 家族がいかなる意思決定を選択しても支援できるよう家族を含めた医療者間で患者に対する目標や課題を確認し、医療者間が一貫した姿勢で家族に臨めるように、医療者間で情報や治療の目標が共有されていることが重要である。

3. 家族が選択したことを後悔せずに過ごすことができるよう、家族が選択した意思決定を肯定し、家族のありのままの気持ちを受け止め、患者との死別後に家族の手助けとなるよう援助することが重要である。